



# 今富っ子

小浜市立今富小学校  
平成30年2月9日  
= 2 月 号 =

## 校長の 独りの言



若い頃は部活動の顧問をしていて、休日を利用して、時間をかけた練習や遠征を行っていました。最近では、休日を利用して、日帰りの温泉に行くことが増えてきました。温泉に浸かることが至福のひとつと感じる歳になったんだなとつくづく思います。

先日、行った温泉施設でこんなことがありました。サウナから出てきて水風呂に入ろうとしたところ、水風呂の中で水の掛け合いをしている父子がいました。父親と目が合ったので、水の掛け合いをやめて、私を水風呂に入れてくれると思いました。ところが、子どもは大はしゃぎで、水の掛け合いはエスカレートするばかり。父親もそれにあわせて大はしゃぎ。いっこのうにやめる気配がなく、水風呂に入るのをあきらめました。

以前、行った温泉施設ではこんなことがありました。私は水風呂に浸かっていました。子どもが水風呂に入ってきて来て、バシバシと水を叩いて遊び始めました。その水しぶきが私の顔にかかりました。それを見ていた父親が飛んで来て、私に「すみません。」と言い、子どもには「バシバシしたらアカン。この人に水がかかったやろ。この人にちゃんと謝れ。」と一喝しました。

どちらも、父子でふれあう大切な時間を、温泉施設へ来て過ごしていたのだらうと思います。ただ、どちらの子どもが、人としての生き方を学ぶ有意義な時間になったのだらうと考えさせられました。

『子は親の鏡』といわれるように、子どもにとって一番の身近なモデルは親です。我が子が「マナーや常識を知らない」大人には育っていて欲しくないなあと思いつつ、自分自身に矢印を向ける私です。

## 小浜二中学生を モデルに……

美化委員会が、ステキな体験をさせていただきました



学校で子どもが掃除をする文化は、江戸時代の寺子屋に始まるこの説があります。世界の約三分の一の国で、子どもが学校で掃除をしているようです。掃除の目的は、きれいな環境で気持ちよく快適に過ごすことですが、教育的視点からは、集団で協力して時間内に行うことから、協調性を養う、段取りする力をつける、気づく力をつける等、人間形成にとても意味あるものと言えます。

本校では、一年生から六年生までの縦割り班で掃除を行います。美化委員会が中心になって掃除について考え、てくれています。例えば全校集会の時に、掃除前後の挨拶や反省会のやり方を、劇を通して紹介してくれたり、掃除の取り組み方を、ビデオで紹介してくれたりしました。そのお陰で、以前に比べて掃除の時間、しっかりと取り組めるようになりました。三学期に入り、さらにより良い活動にしていこうと、美化委員会の子も達が小浜二中を訪ね、中学生から掃除の取り組み方について学んできました。

小浜二中では、清掃の先進校（掃除の時間は一言も話をせず、時間いっぱい一生懸命に掃除に取り組んでいる学校）を、生徒会役員や各学級の代表生徒が訪問し、生徒主体で掃除の見直しに取り組んでいます。

小浜二中学生と一緒に掃除をしながら、中学生が頑張っている姿に、直接、触れることができ、美化委員会の子ども達にとってこの上ない良い体験になりました。体験した子ども達からは、

登校してきた子ども達が、雪かきをしてくれます。助かっています。



『ボケ（木瓜）』です。日本へは平安時代以前に渡来したようです。元々は「モク」「モック」「ボックワ」と呼ばれていましたが、時代の移り変わりとともに変化し、「ボケ」と呼ばれるようになりました。



織田信長が家紋として「ボケ」を用いていたことから、「先駆者」が花言葉です。『子どもがモデルとなる学校』づくりに、今年度から取り組み始めました。その「先駆者」として、6年生には、中学生になっても、今富小学校児童の良きモデルであり続けて欲しいなと思います。5年生から1年生の子ども達には、『子どもがモデルとなる学校づくり』を、さらにバージョンアップさせて欲しいなと思います。

文責：山名 聡

ご意見・ご感想をお聞かせください。

お名前 ( ) <キリトリセン>

---

---

---

---